

米国カリフォルニア州 高級生食用ブドウの出荷先を確保

FreshPlaza 2025年9月11日

インターナショナルプロデューズグループ (IPG) のダルトン・ドヴォリス氏は、「2025年のカリフォルニア州産生食用ブドウシーズンは、近年で最も活気ある展開となっている。課題と機会が混在する中、国内外の市場に共通のテーマは明らかであり、『品質がビジネスを牽引しており、高品質な果実には確かな需要がある』ということだ」と話す。(以下「」は同氏の話)

輸出需要は品質を重視 輸出面では、アジア全域で需要が堅調であり、特に高品質果実への需要が強い。ベトナム、カンボジア、シンガポール、マレーシア、台湾で最高級ブドウへの関心が高まっている。一方、香港市場はやや軟調であるが、スイートグローブ™、オータムクリスプ®、アプローズ™ (サグラ54) 等の評価の高い品種に集中している。「前向きな話として、香港市場は先週から購買力の向上が見え始めている。」日本市場は現在静かな状況だが、例年10月から需要が高まる傾向がある。

このような状況の中、IPGのアジア向け事業は今年大きく伸びており、あらゆる分野で成長を見せている。同社は、各産地で入手可能な最高級のブドウ、同社が言うところの『ラグジュアリーグレイプ』に注力し、最良のパックを厳選することで、昨年を大きく上回る強い需要と成果を得ている。

アジア域内の生産物との競合 ただし、すべての市場が米国産ブドウに開かれているわけではない。タイ、インドネシア、フィリピンでは、相変わらず中国産の低価格なブドウが市場に溢れており、米国産の供給機会を制限している。それでも、バンコクでは最近、高級な緑色種なしブドウが売れ始めており、9月から12月にかけての好調な展開が期待される。

韓国市場は異なる様相を呈している。シーズン初期には国内産シャインマスカットの豊作によりカリフォルニア産の輸入量が大幅に減少したが、過去1週間で動きが再び活発化しており、現在は緑色ブドウよりも赤・黒ブドウへの関心が高まっている。これは、国内産マスカットが既に緑色ブドウの需要を満たしているためである。「すべての市場に共通するのは、最高品質の果実は必ず行き先があるということだ。」

価格の格差 品質の重要性が高まっており、その結果、一般品と高級品の価格差が拡大している。「これは今年を象徴する傾向のひとつであり、適切な風味、食感、外観を提供した生産者と販売者には明確な成果がもたらされている。」緑色ブドウではアイボリー™、スイートグローブ™、グレートグリーン™、オータムクリスプ®が主導しており、赤ブドウではクリッシー™、ジャックスサリーユート™、ルビーラッシュ®、スイートスカーレット、及びその他一握りの特産種なし赤ブドウ品種が、品質さえ合えば、市場を獲得している。

国内市場の苦戦 米国国内市場は今シーズン特に厳しい状況にある。卸売市場ではメキシコ産果実の大量流入により滞貨が発生し、価格が抑制されて苦労している。さらに、サクランボのシーズンが長引いたため競合果実が小売店の棚に通常より長く残り、カリフォルニア州産が入荷する中でブドウの荷動きが鈍化している。

卸売市場に依存する多くの生産者は、果実の出荷が困難となり、または収益の減少を余儀なくされている。小売業者との契約取引は比較的安定しているが、出荷量は生産者の期待に届いていない。市場が低調なため冷蔵施設が満杯で、単純に保管場所がないために収穫量を制限せざるを得ない状況も発生している。

強固な販売プログラムを持つ生産者や販売事業者は「まずまず」の結果を上げているが、特に良いわけではない。一方、市場に依存する者は大きな打撃を受けている。結局のところ、それでも良い果実は動いている。高品質な果実は依然として売り先があり、品質の劣る果実は滞留している。この不均衡が、多くの生産者を輸出機会の拡大に走らせ、国際取引への依存を高めている。

今後の展望 生食用ブドウ市場は、供給過剰、国際競争、需要の変化といった様相を呈しているが、高級ブドウをめぐる動きは明るい兆しである。「今後はベリー類、柑橘類、核果類など他のカテゴリーにも高級化の流れが広がると予想している。青果物の未来は『プレミアム』にある。」

カリフォルニア州の生産者は、世界市場で競争可能な果実を供給できることを再び証明した。同州の収穫は前年より1~2週間早く進行している。これは早期の終了を意味するわけではないが、最良の果実は早期

に出荷され、残りは輸入品の入荷時期にまでずれ込む見込みである。「現在は、ジャンボサイズのオータムキングや風味豊かなオータムクリスプ®など、晩生の緑色ブドウ品種への移行期にあり、赤・黒ブドウは好調のうちに終了するところである。」

今後注目すべきは、冷蔵施設がどれだけ早く空くか、卸売市場が回復するか、シーズン後半の需要がどこまで続くかである。遅い降雨がシーズン後半の一部の作物に影響を及ぼす可能性があり、北部地域では既に被害が出ているため、天候も懸念材料である。同時にペルー及びチリからの輸入シーズンがさらに拡大する見込みに対して備えが進んでおり、年間を通じて高品質果実への注目が続く。カリフォルニア州、ペルー、チリにおける強固な調達ネットワークにより、IPGは年間を通じて高品質果実の供給を維持し、世界のパートナーに安定供給を行う体制を整えている。

最後に、今シーズンを最もよく象徴する言葉は — 「高品質な果実には必ず行き先がある。」

執筆者： マリーカ・ヘムス （翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）